

1 コーポレートストーリー

- 01 目次
- 02 「UACJ Report 2022」発行にあたって
- 03 UACJグループ理念
- 04 コーポレートスローガン／アルミニウムで実現する社会

2 軽やかな世界への道筋

価値創造ストーリー

- 11 トップメッセージ
- 17 ビジネスモデル
- 19 UACJが挑戦する3つの環境価値の創出
- 21 価値創造プロセス
- 23 価値創造のための経営資本
- 25 投資家との対話
- 29 中期経営計画の変遷

中期経営計画

- 31 中期経営計画の進捗
 - 33 重点方針1 構造改革の完遂
追加施策の迅速な実行により収益改善効果210億円の達成へ
 - 35 重点方針2 成長への基盤の強化(付加価値の向上)
グローバルな成長を続ける缶材需要に応え続けるために
 - 37 重点方針2 成長への基盤の強化
(成長市場・成長分野への注力)
カーボンニュートラルに挑む自動車産業を支え続けるために
 - 39 重点方針3 軽やかな世界の実現への貢献
社外取締役×気候変動対策推進担当役員対談
グローバル・アルミニウム・メジャーの矜持をもって
業界や社会のサステナビリティ推進をけん引していく

3 軽やかな世界への基盤

持続的成長を支える戦略

- 43 サステナビリティ
 - 43 サステナビリティマネジメント担当役員メッセージ
 - 46 サステナビリティガバナンス
 - 49 気候変動問題への対応
 - 53 人材担当役員メッセージ
 - 55 人材マネジメントの進化
 - 57 労働安全・人権・多様性の徹底
- 59 リスクマネジメント
- 61 UACJを取り巻くリスク(機会と脅威)

ガバナンス

- 63 社外監査役座談会
- 67 役員一覧
- 69 コーポレートガバナンス

4 軽やかな世界への源泉

- 76 財務状況および経営成績の分析
- 83 財務・非財務ハイライト
- 85 10年間の主要財務データ
- 87 会社情報／株式情報
- 89 FAQ(よくあるご質問)

本レポートの位置づけ

要点・概要
↑
↓
網羅・詳細



報告対象範囲

対象期間:
2021年4月1日～2022年3月31日
(一部に2022年4月以降の活動内容などを含む)

対象組織:
(株)UACJおよびその国内外の連結子会社
(一部データは個々に記載)

会計基準: 日本会計基準

発行時期: 2022年9月

将来の見通しについて

当資料に掲載している情報の一部には、将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は環境の変化などにより、実際の結果と異なる可能性があることにご留意ください。

「UACJ Report 2022」発行にあたって

アルミニウムは、現在、持続可能な未来の実現に貢献する素材として期待が高まっています。例えば、その優れたリサイクル性は循環型社会の形成に、軽量性は自動車の走行時におけるCO₂排出量削減に寄与します。当社がコーポレートスローガンに掲げる「アルミでかなえる、軽やかな世界」——その実現はアルミニウムメーカーとしての使命であり、当社自身の成長にもつながります。

そのための土台として、当社には100年以上にわたり培ってきた技術や、互いに地域や機能を補完し合うグローバル供給体制があります。財務基盤についても、2019年から構造改革に取り組み、2021年度に過去最高益を達成。さらには、リサイクルの推進に向けたビジネスモデルの拡大、世界的なアルミニウム業界団体であるASI※の認証取得を通じて、変革したサステナブルな組織といった新たな基盤も獲得し、全社一丸となって“軽やかな世界”の実現に取り組んでいます。「UACJ Report

2022」では、そんな今の、そして未来志向の当社グループの姿をお伝えしています。

本レポートの作成にあたっては組織横断的に社員が集い、対話を重ね、国際会計基準財団(IFRS財団)が提唱する「国際統合報告フレームワーク」や経済産業省が提唱する「価値協創のための総合的開示・対話ガイダンス」などを参照しながら編集しました。ぜひご一読いただき、忌憚のないご意見やご感想をお寄せいただければ幸いです。

※ Aluminium Stewardship Initiative



財務本部 IR部長
上田 薫

編集メンバー(50音順)

IR部

石川 友也
上田 薫
林 巧
綿貫 祥子

サステナビリティ推進部

東 弘幸
伊勢谷 真人
野瀬 健二

コーポレートガバナンス部

梅津 晃
武井 秀之
堀田 哲朗

リスクマネジメント部

小野田 範子
北野 広志

人事部

草留 大輔
熊谷 規一郎
黒川 直治

技能開発部

鹿嶋 英一

安全環境部

柳澤 宏幸
吉元 勝

自動車部品事業本部

工藤 徹
時實 直樹
山田 卓司

海外営業統括部

後藤 健介

UACJグループ理念



企業理念

素材の力を引き出す技術で、持続可能で豊かな社会の実現に貢献する。

目指す姿

アルミニウムを究めて環境負荷を減らし、軽やかな世界へ。

価値観

- ▶ 相互の理解と尊重
- ▶ 誠実さと未来志向
- ▶ 好奇心と挑戦心

コーポレートスローガン

Aluminum lightens the world

アルミでかなえる、軽やかな世界

私たちUACJグループは、
高品質なアルミニウムの供給を通じて、
人びとの暮らしの向上や持続可能な社会の実現に
貢献していきます。



IT分野

軽量・高強度な製品で、
IT機器のモバイル化に。

幅広い分野で活躍する アルミニウム

アルミニウムが世界に誕生してから200年。

高いリサイクル性や軽量性で、

環境負荷低減に貢献し、

高機能や意匠性、加工性で、

ユーザーを魅了してきました。

飲料缶分野

鮮度を長持ちさせ、
おいしさをいつまでも。

医薬品・ 食品分野

無害・密封性を活かして、
安全・健康を。



自動車分野

クルマを軽やかにし、
燃費向上・環境負荷低減に。



航空・宇宙分野

最先端技術を活用して、
安全性と燃費向上の両立に。



建材分野

アルミニウムの
多様な特性を活かして、
景観性と作業性の向上に。



アルミニウムには多彩な特性があります。

軽くて丈夫、熱や電気を伝えやすい、加工しやすいリサイクルも容易といった多彩な特性を持つアルミニウム。素材の特性を活かし、社会の中で幅広く使われています。国内最大級の大型溶解炉など世界有数の生産設備を持つ当社は、高い研究力と技術力で、アルミニウムの可能性を引き出しています。

アルミニウムの特性

軽い

強い

耐食性がよい

磁気を
帯びない電気を
よく通す熱をよく
伝える

低温に強い

毒性がない

光や熱を
反射する表面処理
しやすい

鋳造しやすい

加工性がよい

接合しやすい

真空特性が
よい

再生しやすい

社会課題を解決する素材として アルミニウムのポテンシャルは 無限に広がる。

そして今、持続可能な社会の実現に向けて、
アルミニウムへの期待はさらに高まっています。

気候変動に 対応するために

アルミニウムの軽量性により、
製品使用時のCO₂排出量を削減



廃プラスチック問題への 解として

プラスチックに代わる容器素材としてアルミニウムが活躍



サーキュラー エコノミーの実現へ

リサイクルで
ごみを資源として循環

廃棄ロスの削減に

耐久性・保存性の向上により、
廃棄ロス、生産時環境負荷を低減



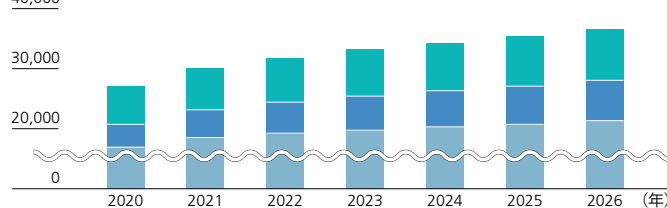
世界のアルミニウム市場は2021年から2026年までにCAGR※3.9%の成長が見込まれています。

持続可能な社会への転換を背景にアルミニウムの需要は世界的に増加し、その市場は2025年までに17%（年率3.9%）の成長が見込まれています。特に自動車材は、脱炭素の実現に向け軽量化が必須であることや電気自動車の電池等にアルミニウムが使われることから、40%の伸びが予想されています。また缶材においても、リサイクル性の高さからアルミニウムが選ばれ、18%の需要増になると考えられています。

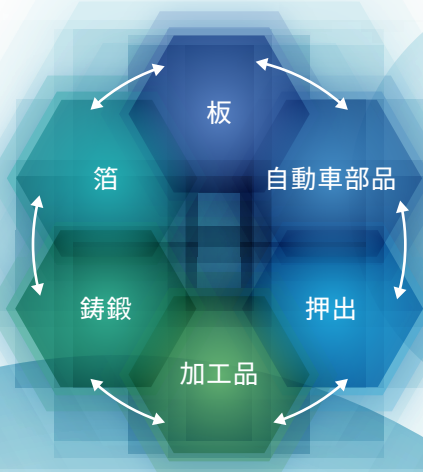
※ Compound Annual Growth Rate. 年平均成長率

グローバルでのアルミニウム需要の見通し

（千トン／年） ■ 缶材 ■ 自動車材 ■ その他



出所：当社調べ



顧客ニーズに応え続けるなかで
磨き上げてきた

ものづくり力

二社統合で誕生した当社には、両社が100年以上培ってきたアルミニウムへの知見と“ものづくり力”が蓄積されています。多彩な加工力、および事業間連携による商品・サービスの提供を通じて、顧客のニーズに応え、“素材+α”の価値を提供します。

世界トップクラスの 総合アルミニウムメーカーとして 軽やかな世界を実現していく。

UACJグループは、100年に亘り究めてきた技や術を結集し、
これからもアルミニウムの可能性を拡げていきます。

より良い地球環境づくりのために、
この世界をより明るく、軽やかに変えていきます。

世界トップクラスの生産能力を持ち続けてきた

グローバル供給体制

年間150万トンを超える生産能力は世界トップクラス。
特に板事業においては、日本、米国、タイの3極で年間
30万トン以上の生産が可能な製造拠点を4カ所所有し、
旺盛さを増すアルミニウム需要に対応しています。





最先端を歩むなかで業界をリードしてきた

研究開発・技術力

研究開発・技術力は、多種多様な製品を作り出す源泉です。素材設計、機能設計、生産技術の「基礎技術」と、接合・接着技術や熱マネジメント技術などの「応用技術」を掛け合わせ、アルミニウムの新たな可能性を拓いています。

1910
古河電気工業(株)が
アルミニウム電線の研究を開始

1964
スカイアルミニウム(株)
を設立

2003
経営統合して古河スカイ(株)を設立

1890 1900 1910 1920 1930 1940 1950 1960 1970 1980 1990 2000 2013 (株)UACJ発足

1898
「住友伸銅場」において
アルミニウム圧延事業を開始

1935
住友金属工業(株)を設立

1959
住友軽金属工業(株)を設立

新たな価値創造に挑み続けてきた

人材・企業文化

UACJには「UACJウェイ」を共有する多彩な人材が集まり、アルミニウムの無限の可能性に挑戦しています。コミュニケーションを大切にする企業文化で、新たな価値を創造します。



自らもサステナブルな企業へと、進化し続けます。

環境・社会・経済の持続可能性への配慮は事業を継続するうえで不可欠です。当社は経営の根幹にサステナビリティ活動を組み込み、グループを挙げて強力に推進しています。2020年には日系アルミニウム圧延メーカーとして初めて、アルミニウムのサプライチェーンにおけるサステナビリティ向上を目指す国際イニシアチブ「Aluminium Stewardship Initiative」に加盟し、2022年3月には福井製造所とラヨン製造所(UATH※)で認証を取得しました。お客様やサプライヤーとも力を合わせ、持続可能なアルミニウム事業の実現を追求していきます。

※ UACJ (Thailand) Co., Ltd.

